

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4075400285		
法人名	社会福祉法人 直鞆会		
事業所名	グループホーム やすらぎ園		
所在地	福岡県鞍手郡鞍手町大字木月1826番地1 (電話) 0949-42-6883		
自己評価作成日	令和 4 年 5 月 30 日	評価結果確定日	令和 4 年 9 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者と職員の信頼関係を深め、その人らしい生活ができるよう取り組んでいる。病院受診など健康管理にも力を入れている。今年度より協力医療機関の系列クリニックの訪問診療を受けることができるようになり、定期的な健康管理が行え緊急時を含めて安心できる。又、現在はコロナ禍で中止をしているが、利用者が笑顔で生活できるよう、ボランティアの協力を得て書道、塗り絵、音楽療法、童謡唱歌など生活の活力を見いだす活動を行っていた。今は出来る範囲での外出にしているが、コロナ感染症が収束すれば、以前のように買い物外出や家族参加の日帰り旅行、忘年会等の行事を行いたい。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 4 年 7 月 29 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、田園に囲まれた自然豊かな環境に位置している。役場や病院も近く、必要な機能と自然が両立されている。敷地の中には、同一法人の特別養護老人ホームとデイサービス、在宅介護支援センターがあり、通いから入所までの継続支援が可能である。
事業所の建物は敷地内に独立して建てられており、ゆとりのある1階、2階の2ユニットと、地域交流スペースが別に設けられており、行事や様々なイベントに活用が可能である。
事業所職員は有資格者が揃っており、穏やかな環境の中、落ち着いた支援が実践されている。普段の生活では行くことができない場所への積極的な外出支援を再開できるように、今できることを工夫しながら行っている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	長く生活してきた地域で安心して暮らせる様『私達は、高齢者が笑顔で安心できる生活を支援します』を法人全体の理念に掲げ、またグループホーム独自の理念として『住み慣れた町で、その人らしさを大切に、心やすらぐ生活を』掲げている。各会議の折、全職員が理念を共有するよう話し合いの中で確認、意識している。朝礼でも唱和している。	地域密着型の視点を踏まえた理念があり、事業所内に掲示し、毎朝の申し送り時やミーティングの際に唱和している。日々の業務や会議の中で、理念が実践できているかを定期的に振り返っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板などで地域情報を把握している。今はコロナ禍でできないが、公民館や子ども会による盆踊り、祭りみこしや、春まつりでの地域の住人、ボランティアと多くの交流がある。又、地域の書道・竹細工・童謡唱歌ボランティアの訪問や、特養での利用者と一緒に保育園や踊りの会の訪問を受けていた。	地域の感染状況を確認しながら、高校の介護科実習生を受け入れる等、地域とのつながりが途絶えないように、現状でできることを行っている。コロナ禍前は、積極的にボランティアを受け入れたり、法人の盆踊り大会に地域住民や子ども達が参加したりと、地域との交流を行っていた。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、認知症などのテーマで家族介護教室を開催し、地域の方々に役立つ情報を提供し、高齢者の生活の支援を行っていたが現在コロナ禍で行っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催し、入居者の生活状況や外部評価への取り組みの報告を行い、問題点を探りサービスのより良い向上を図っている。また、避難訓練にも参加いただいている。現在はコロナ感染予防のため書面会議で行うことが多い。	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催されている。現状は書面による開催で、事業所の状況報告がなされている。参加者は利用者、利用者家族、行政職員、民生委員、ボランティアの方と、地域からの参加もある。	事業所の状況報告のみでなく、アンケートを同封する等、運営推進会議のメンバーに意見を聴いて、事業所のサービス向上に活かすことができるような方法を検討することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の受託事業である、介護教室を年1回開催していたが現在事業が中止している。運営推進会議に参加してもらっている。コロナ発生状況も速やかに報告している。	事業所は役場に近い立地であり、日頃から行政へ運営に対する報告を行う等、相談しやすい関係を築き、サービスの質の向上に取り組んでいる。コロナ禍前は、行政からの委託を受けて、家族介護教室を毎年開催していた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない。身体拘束廃止委員会を設置し、会議、身体拘束廃止の内部研修を行い、啓発活動も行っている。玄関は電子ロックはなるべくかけないようにしているが、帰宅願望が強い入居者がいる場合、難しい事がある。個人の状態に応じて、人感センサーを利用者の家族の了解を得て、設置している。身体拘束ゼロ宣言をしている。	事業所は、あらゆる身体拘束をしない方針であり、全職員が「虐待セルフチェックリスト」により自己チェックを毎年行っている。自己チェックの結果は上司との個別面談の中で共有され、スピーチロックなど、どのようなことが身体拘束に繋がるのかを学習する機会を設けている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、事例などを通して人権の尊重を常に考えている。外部研修も受け、職員間で虐待防止に努めている。また、職員全員に自己チェックリストと面談を行い、啓発に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	玄関窓口にも制度に関するパンフレットを置いている。利用契約時に説明を行っている。職員間も内部研修を通じて勉強会を行い理解に努めている。	成年後見制度、日常生活自立支援事業の資料を事業所内に常時備え、利用開始時には説明を行っている。WEBで参加した外部研修の内容は事業所内で伝達研修がなされている。制度の理解のため、法人の年間研修計画にも組み入れられ、毎年実施されている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項説明書を丁寧に説明し、入居者・家族に不安や疑問が残らないように努めている。わからないことがあれば、いつでも声を掛けていただくよう案内している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍でカンファレンスの家族参加ができていないが、定期的な連絡や訪問時に必ず意見等を聴き、運営に反映している。意見箱を設置している。相談窓口の担当者、外部機関の苦情相談窓口を玄関に掲示している。	利用者から近くの神社に参拝したい、好きなお菓子を買に行きたいといった要望があり、感染対策に留意し少人数による外出支援を行う等、日々利用者からの要望には出来る限り応えるようにしている。また、家族からも、本人の行きたい所、住んでいた家に連れて行って欲しいといった要望があり、実践されている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の他、必要に応じて個人面談を行い、職員の意見を聞いている。行事の内容や利用者間の人間関係など職員の気付きを運営に反映している。	日常的に行われているおやつ作り、ハンドマッサージ、紙芝居等のレクリエーションは、職員の提案を取り入れて行われている。年に一度、個人面談を行い、面談の機会以外でも相談があればその都度話を聞いている。職員からの提案は、事業所全体の会議で協議し、様々な意見を運営に反映するようにしている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期の報告と変動時の報告を受けている。毎年健康診断も行っている。心身の体調に配慮し、勤務内容の変更等、メンタル面のサポートをしている。個人の能力が発揮できるよう、考慮している。ストレスチェックも行い、サポートしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集時はハローワーク等に行っており、採用にあたっては、性別や年齢による判断はしていない。 能力が発揮できるよう考慮している。	事業所には幅広い年齢の職員がおり、採用に際しての年齢、男女の区別は行っていない。定年後の継続雇用も行っており、本人の意欲があれば、継続して勤務できる体制である。同一法人内の他事業所への異動についても、職員の希望があれば、状況に応じて対応が可能である。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体により、職員倫理、プライバシー保護・個人情報保護などについて内部研修を行っている。	「倫理、プライバシー、個人情報」といったテーマで研修会の法人代表者が講師となり、事業所を含む法人全体に向けた講義を毎年行っている。法人に設けられている虐待防止委員会においても、人権の尊重に基づいた支援について話し合いが行われている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間内部・外部研修計画を立て、取り組んでいる。外部研修に参加した職員は、職員会議等で他の職員へ研修報告し、共有できるようにしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ボランティア連絡協議会の主催で、年に一度町内のグループホーム交流会があり、入居者、職員共に交流していたが、現在コロナ禍で開催されていない。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み後、入居に至る前に面接し、本人の声に耳を傾け、気持ちや希望を受け止め信頼関係作りにも努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に当たり事前に面接し、現在の家族状況、本人の状況を十分に聴き、本人と家族のそれぞれの思いや希望、要望を理解するよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって何が最良であるかを見極め、多方向から検討している。ケアマネジャーとも相談している。入居1ヶ月後にプランの再検討を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で本人にできることを職員を交えたグループの中で実践している。料理の盛り付けや食器洗い、洗濯物干しとたたみ、花の水やりなどを一緒にしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、本人の生活の様子をお話して、職員に何でも話しやすい雰囲気作りをしている。コロナ禍で家族と共にする行事ができない中、病院受診報告などを通してコミュニケーションを図っている。廊下に公衆電話があり自由に話ができる。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なるべく今まで生活してきた友人の方などへの関わりが途切れないよう、訪問しやすい雰囲気作りに努めている。以前の生活圏にあるスーパーや神社に出かけたり、ドライブしたりしている。	利用開始前のアセスメントで、本人と家族の希望や趣味が聞き取られ、支援に反映されている。馴染みの美容院や化粧品屋さん、引き続き事業所職員が連れて行く等、関係性が継続するように支援している。事業所内の公衆電話を利用して、友人や家族に電話することができる。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性、性格を踏まえ、席なども職員が間に入り配慮している。入居者同士で声をかけ合い、食事の用意なども出来るよう、職員がさりげなく行っている。又、ソファの配置で入居者同士が集いやすい環境を作っている。状況により、談話室の模様替えを行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接の特養に移られた方や、入院後退居となられた方へ時々会いに行くことで関係を保っている。亡くなられて初盆を迎える家族に、園での盆供養の案内をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常的に入居者の声に耳を傾け、本人の希望する生活を実現できるよう心掛けています。家族の面会時に情報収集をしたり、思いや意向の把握に努めている。食事の好き嫌いや好みのおやつに対応している。	入居時に、利用者及び家族からの情報提供で、ホームでの暮らしに関する「思いや希望」等をアセスメントし、ケアプランに反映している。意思確認が困難な利用者は、環境変化等を考慮し、職員間で共有し、チームで対応している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からの生活歴については家族等からも十分に情報を取り入れている。以前の生活環境と著しく変わる事がないように、家族との関係を密に取りながら、日々の暮らしを支えている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人別の支援経過を記録し、日々の様子や発言等から入居者の現況を職員間で情報共有している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気付きや意見を出し合い介護計画を作成している。本人や家族の意向をできる限り反映できるよう、家族にカンファレンスに参加していただいていたが、現在コロナ禍でできてない。ケアの実践を確認しながら介護計画を作成している。定期的なケア会議のモニタリングで職員全員が意見を出し合いケアの検討を行っている。	介護計画、モニタリングは、家族や職員の意見を反映しながら作成され、6ヶ月ごとの見直しも含め、必要に応じて随時、実施されている。介護計画を見直した際は、その都度家族へ報告し、同意を得ている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録があり、日々の様子や気づきを記入し、職員間の情報の共有を行い、その中でケア実践に活かしている。他に職員の引継ぎ帳を作り、情報共有に役立てている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関への受診時の支援、健康状態の把握をしている。入院時には、主治医と相談をして早期退院に向けての協力を得ている。外出時の送迎の支援も行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練時には消防署の協力があり、警察へのパトロール強化をお願いしている。季節の行事では、地域のボランティアや商工会等地域住民の協力があり、町内の美術展にも出品していたが、現在コロナ禍で行事が行われていない。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族希望のかかりつけ医を受診している。受診に家族が付き添えない場合は送迎と付き添いも行っている。別の医療機関へのアドバイスや希望も取り入れている。希望により月2回の訪問診療を受け健康管理を行い、協力病院との連携がとれている。訪問歯科とも連携をとっている。	本人及び家族の希望するかかりつけ医となっている。また、家族と受診時の通院介助の方法等について話し合い、合意している。協力医療機関による訪問受診、訪問歯科診療、専門医受診支援、看護師による健康管理等、医療支援、連携体制が構築されている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の細かな変化を見逃さないよう、バイタルチェックや食事排泄状況からの気づきを看護職にその都度報告し、指示を仰ぐようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院したときは毎日入院者介護を行っていたが、現在コロナ禍で面会ができない。入院中の洗濯物の受渡しは行っている。早期退院に向け、主治医や家族と話し合いを行っている。主治医や看護師からの病状報告をこまめに受けている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の本人家族の意向を伺い、終末期のあり方について説明を行っている。看取りの方針を共有している。かかりつけ医と連携し、本人家族の意向に沿った支援をしている。	重度化や終末期のあり方について明文化している。入居時に、重度化、看取りのあり方について、文書、マニュアル等を用いて説明し、同意を得ている。早い段階から本人や家族への説明、ホーム職員及び医療関係者等でのチーム支援が実施されている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内部研修により急変時の対応に備えている。救急蘇生、AEDの使用など実技研修も行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災関係マニュアル、消防計画書を作成して消防署と連携して年2回、日中夜間想定避難訓練、風水害市雨堤訓練を実施している。消火設備の定期点検も年2回業者に依頼している。米飯、レトルト食品、飲料水の非常食や毛布、オムツなど準備している。火災一斉メールシステムにより、緊急時には全職員と団体代表者にメールが送信される。スプリンクラーを設置している。	防災訓練は消防機関の協力のもと、定期的実施されている。避難訓練については、昼夜想定、一斉メールシステム等の取り組みが行われている。また、災害時には隣接の同法人の特別養護老人ホームと連携を取ることとしている。防災用備蓄については、一覧表を作成し、食品、飲料水、毛布等が常備されている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重する介護ができるよう、内部研修や職員会議で学ぶ場を作り、周知徹底をしている。プライバシー保護のマニュアルがある。	日常の暮らしの中で、利用者の人格尊重、誇りやプライバシー保護に留意した支援について研修やミーティング等、職員間で共有する取り組みを行っている。また、スピーチロックのアンケートをもとに、改善に向けてチームで取り組んでいる。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より入居者と良好なコミュニケーションを図ることで本人の希望や関心を引き出すようにしている。生活の中での表情や仕草を注意深く、読み取り気持ちを受け入れるよう心掛けている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホーム内の入居者の楽しみごとや出番を見出せるよう、場面作り等の支援を行っている。レクリエーション活動は、本人の希望や体調に合わせている。本人が得意な作業（洗濯、掃除、水やり）をしてもらうなど業務を工夫している。起床、就寝時間も入居者のペースになるべく合わせている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後の身だしなみを個別支援している。理美容院が定期的に訪問し、散髪、毛染め、パーマなど本人の希望に応じて行い、大変喜ばれている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事に沿った献立、料理を提供している。食事もゆっくりと楽しみながら、その方の食べやすい形態に対応している。簡単な盛り付け、片付けを職員と一緒にやっている。園庭で花見や外気浴をしながら、おやつやティータイムをする機会を増やしている。	食事は同法人の特別養護老人ホームの管理栄養士によるメニューに基づき、ホーム職員が手作りしている。利用者と職員と一緒に準備や後片付けを行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立作成を行い、摂取量を記録している。必要な場合は栄養ラウンド表に記入し、食事形態や補助食品など管理栄養士と職員の相談のもと、適切に支援している。水分量が確保できるよう、お茶以外の飲物も工夫している。必要な場合は水分チェック表を作成し水分摂取量を把握している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、うがいの声掛けと見守り確認を行っている。義歯の方は洗浄を介助している。必要な方は、歯科受診を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助表を作成し、排泄パターンを把握し、個人の状態に応じた声掛けを行い、安いで清潔を保ち、気持ちの良い排泄ができるよう工夫している。プライバシーを考慮した対応にも心掛けている。	排泄介助表をもとに、各利用者ごとの状態に合わせた排泄支援を行っている。プライバシーに配慮し、さり気無い支援に取り組んでいる。各ホールに3箇所のトイレがあり、手すりや十分なスペースが確保されている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士が検討し便秘予防として個別にヨーグルト、ヤクルト、食物繊維を摂取してもらっている。体操や歩行などの運動も取り入れている。十分な水分摂取を行っている。担当医と相談の上、必要な方には整腸剤や下剤を処方していただく。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は毎日可能である。日曜日は家族の面会が多く、また、通院がないため菓子作りなどが皆さんと一緒に楽しむ時間を設けているが希望があれば入浴できる。本人の体調や希望を聴き、入浴へ誘っている。気が向かない時は、時間をおいて再度誘う。足浴、シャワー浴でリラックスしてもらう時もある。	浴場、脱衣所は余裕のあるスペースが確保されている。脱衣所は冷暖房完備で、基本的に毎日入浴することが可能である。菖蒲湯、入浴剤等も試みられている。入浴後の皮膚のチェック、保湿クリーム塗布等の入浴支援が行われている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の睡眠パターンを把握し、1日のリズムを通して安眠できるように対処している。日中は、なるべく活動的に過ごしてもらえよう支援しているが、お昼寝を希望される方や必要な方は適切な時間の休息をしていただいている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員が管理し、薬袋に服薬の時間、名前を書き込んでいる。薬の種類、副作用については個人ファイルで管理し、職員がいつでもわかるようにしている。薬の変更時は、症状・観察を記録し、主治医に情報提供している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴より個人の趣味が生かせるよう空閑作りをしている。編み物、書道、折り紙、歌など皆でできる事と個人の趣味を分けて実施している。洗濯物干しやたたみなども職員と一緒にやっている。今はコロナ禍でできていないが、職員と一緒に外食やショッピング等に出掛けたりしていた。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外気浴で散歩している。花見やドライブにも出かけている。コロナ禍で控えているが、以前は家族に働きかけ外出の機会を作っていた。日帰り旅行や外食ドライブ、地域イベント参加など企画していた。	日常的にホーム周辺を散歩している。また、田園風景の中で、外気浴を兼ねて園庭でティータイムを楽しんでいる。コロナ禍前は、外出支援は多彩であったが、現在は戸外への外出はドライブをしている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できる方には、買物時に個人の財布にて使ってもらっている。個々の利用者に応じた金銭の額や使途に関する相談を家族等と行い、合意を得て管理を行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話やコードレス電話があり、そのたび対応している。自分でかけられない方には、家族へ働きかけ機会を作っている。携帯電話を持っている方もいる。家族や友人への年賀状を勧めている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や季節の花を飾り、毎日清掃して心地よくしている。床の間や掘りごたつのある畳コーナーやソファを置き、家庭的な空間になるよう努めている。空調を管理し、冬場は加湿器も使用している。天候の良い日は外のテーブルでティータイムをしている。玄関前やベランダに花を植え、季節感を味わってもらっている。	遮るもののない田園風景の中、陽光いっぱい廊下は広く、ゆったりとした室内である。リビングには畳敷きの掘りごたつがあり、アットホームな空間が広がっている。利用者の手製の作品や写真が掲示され、居心地良く過ごせるように配慮されている。また、ホームにはピアノや舞台が備えられた広い交流スペースがあり、地域との交流にも役立っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室や廊下にソファを置いて、入居者同士と一緒に楽しく過ごせるように配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使っていた馴染みの物品を持ってきて頂き、家族と一緒に落ち着ける部屋作りをしている。 家族の写真や誕生日の記念写真などを飾っている。自分で作った作品も飾っている。	居室は、洗面台と広いクローゼットが配置されている。利用者と家族が相談して、馴染みの家具や写真等が持ち込まれている。部屋は清潔で明るく、利用者それぞれに個性的な部屋作りとなっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差はなく、手すりの設置も十分あり、床には安全な床材マットを使用している。トイレ、浴室、洗面台には杖立を設置している。又、トイレスペースを広く取り、安全性を確保している。入居者の状態に応じて、手すりや家具の配置を変えて安全な環境作りに努めている。自分の居室が分からなくなる人には個別の目印を設置している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	長く生活してきた地域で安心して暮らせる様『私達は、高齢者が笑顔で安心できる生活を支援します』を法人全体の理念に掲げ、またグループホーム独自の理念として『住み慣れた町で、その人らしさを大切に、心やすらぐ生活を』掲げている。各会議の折、全職員が理念を共有するよう話し合いの中で確認、意識している。朝礼でも唱和している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板などで地域情報を把握している。今はコロナ禍でできないが、公民館や子ども会による盆踊り、祭りみこしや、春まつりでの地域の住人、ボランティアと多くの交流がある。又、地域の書道・竹細工・童謡唱歌ボランティアの訪問や、特養施設の利用者と一緒に保育園や踊りの会の訪問を受けていた。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、認知症などのテーマで家族介護教室を開催し、地域の方々に役立つ情報を提供し、高齢者の生活の支援を行っていたが現在コロナ禍で行っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催し、入居者の生活状況や外部評価への取り組みの報告を行い、問題点を探りサービスのより良い向上を図っている。また、避難訓練にも参加いただいている。現在はコロナ感染予防のため書面会議で行うことが多い。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の受託事業である、介護教室を年1回開催していたが現在事業が中止している。運営推進会議に参加してもらっている。コロナ発生の状況も速やかに報告している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない。身体拘束廃止委員会を設置し、会議、身体拘束廃止の内部研修を行い、啓発活動も行っている。玄関は電子ロックはなるべくかけないようにしているが、帰宅願望が強い入居者がいる場合、難しい事がある。個人の状態に応じて、人感センサーを利用者の家族の了解を得て、設置している。身体拘束ゼロ宣言をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、事例などを通して人権の尊重を常に考えている。外部研修も受け、職員間で虐待防止に努めている。また、職員全員に自己チェックリストと面談を行い、啓発に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	玄関窓口にも制度に関するパンフレットを置いている。利用契約時に説明を行っている。職員間も内部研修を通じて勉強会を行い理解に努めている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項説明書を丁寧に説明し、入居者・家族に不安や疑問が残らないように努めている。わからないことがあれば、いつでも声を掛けていただくよう案内している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍でカンファレンスの家族参加ができていないが、定期的な連絡や訪問時に必ず意見等を聴き、運営に反映している。意見箱を設置している。相談窓口の担当者、外部機関の苦情相談窓口を玄関に掲示している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の他、必要に応じて個人面談を行い、職員の意見を聞いている。行事の内容や利用者間の人間関係など職員の気付きを運営に反映している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期の報告と変動時の報告を受けている。毎年健康診断も行っている。心身の体調に配慮し、勤務内容の変更等、メンタル面のサポートをしている。個人の能力が発揮できるよう、考慮している。ストレスチェックも行い、サポートしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集時はハローワーク等に行っており、採用にあたっては、性別や年齢による判断はしていない。 能力が発揮できるよう考慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体により、職員倫理、プライバシー保護・個人情報保護などについて内部研修を行っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間内部・外部研修計画を立て、取り組んでいる。外部研修に参加した職員は、職員会議等で他の職員へ研修報告し、共有できるようにしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ボランティア連絡協議会の主催で、年に一度町内のグループホーム交流会があり、入居者、職員共に交流していたが、現在コロナ禍で開催されていない。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み後、入居に至る前に面接し、本人の声に耳を傾け、気持ちや希望を受け止め信頼関係作りにも努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に当たり事前に面接し、現在の家族状況、本人の状況を十分に聴き、本人と家族のそれぞれの思いや希望、要望を理解するよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって何が最良であるかを見極め、多方向から検討している。ケアマネジャーとも相談している。入居1ヶ月後にプランの再検討を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で本人にできることを職員を交えたグループの中で実践している。料理の盛り付けや食器洗い、洗濯物干しとたたみ、花の水やりなどを一緒にしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、本人の生活の様子をお話して、職員に何でも話しやすい雰囲気作りをしている。コロナ禍で家族と共にする行事ができない中、病院受診報告などを通してコミュニケーションを図っている。廊下に公衆電話があり自由に話ができる。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なるべく今まで生活してきた友人の方などへの関わりが途切れないよう、訪問しやすい雰囲気作りに努めている。以前の生活圏にあるスーパーや神社に出かけたり、ドライブしたりしている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性、性格を踏まえ、席なども職員が間に入り配慮している。入居者同士で声をかけ合い、食事の用意なども出来るよう、職員がさりげなく行っている。又、ソファの配置で入居者同士が集いやすい環境を作っている。状況により、談話室の模様替えを行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接の特養に移られた方や、入院後退居となられた方へ時々会いに行くことで関係を保っている。亡くなられて初盆を迎える家族に、園での盆供養の案内をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常的に入居者の声に耳を傾け、本人の希望する生活を実現できるよう心掛けている。家族の面会時に情報収集をしたり、思いや意向の把握に努めている。食事の好き嫌いや好みのおやつに対応している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からの生活歴については家族等からも十分に情報を取り入れている。以前の生活環境と著しく変わる事がないように、家族との関係を密に取りながら、日々の暮らしを支えている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人別の支援経過を記録し、日々の様子や発言等から入居者の現況を職員間で情報共有している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気付きや意見を出し合い介護計画を作成している。本人や家族の意向をできる限り反映できるよう、家族にカンファレンスに参加していただいていたが、現在コロナ禍でできてない。ケアの実践を確認しながら介護計画を作成している。定期的なケア会議のモニタリングで職員全員が意見を出し合いケアの検討を行っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録があり、日々の様子や気づきを記入し、職員間の情報の共有を行い、その中でケア実践に活かしている。他に職員の引継ぎ帳を作り、情報共有に役立てている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関への受診時の支援、健康状態の把握をしている。入院時には、主治医と相談をして早期退院に向けての協力を得ている。外出時の送迎の支援も行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練時には消防署の協力があり、警察へのパトロール強化をお願いしている。季節の行事では、地域のボランティアや商工会等地域住民の協力があり、町内の美術展にも出品していたが、現在コロナ禍で行事が行われていない。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族希望のかかりつけ医を受診している。受診に家族が付き添えない場合は送迎と付き添いも行っている。別の医療機関へのアドバイスや希望も取り入れている。希望により月2回の訪問診療を受け健康管理を行い、協力病院との連携がとれている。訪問歯科とも連携をとっている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の細かな変化を見逃さないよう、バイタルチェックや食事排泄状況からの気づきを看護職にその都度報告し、指示を仰ぐようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院したときは毎日入院者介護を行っていたが、現在コロナ禍で面会ができない。入院中の洗濯物の受渡しは行っている。早期退院に向け、主治医や家族と話し合いを行っている。主治医や看護師からの病状報告をこまめに受けている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の本人家族の意向を伺い、終末期のあり方について説明を行っている。看取りの方針を共有している。かかりつけ医と連携し、本人家族の意向に沿った支援をしている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内部研修により急変時の対応に備えている。救急蘇生、AEDの使用など実技研修も行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災関係マニュアル、消防計画書を作成して消防署と連携して年2回、日中夜間想定避難訓練、風水害市雨堤訓練を実施している。消火設備の定期点検も年2回業者に依頼している。米飯、レトルト食品、飲料水の非常食や毛布、オムツなど準備している。火災一斉メールシステムにより、緊急時には全職員と団体代表者にメールが送信される。スプリンクラーを設置している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重する介護ができるよう、内部研修や職員会議で学ぶ場を作り、周知徹底をしている。プライバシー保護のマニュアルがある。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より入居者と良好なコミュニケーション計る事ことで本人の希望や関心を引き出すようにしている。生活の中での表情や仕草を注意深く、読み取り気持ちを受け入れるよう心掛けている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホーム内の入居者の楽しみごとや出番を見出せるよう、場面作り等の支援を行っている。レクレーション活動は、本人の希望や体調に合わせている。本人が得意な作業（洗濯、掃除、水やり）をしてもらうなど業務を工夫している。起床、就寝時間も入居者のペースになるべく合わせている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後の身だしなみを個別支援している。理美容院が定期的に訪問し、散髪、毛染め、パーマなど本人の希望に応じて行い、大変喜ばれている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事に沿った献立、料理を提供している。食事もゆっくりと楽しみながら、その方の食べやすい形態に対応している。簡単な盛り付け、片付けを職員と一緒にしている。園庭で花見や外気浴をしながら、おやつやティータイムをする機会を増やしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立作成を行い、摂取量を記録している。必要な場合は栄養ラウンド表に記入し、食事形態や補助食品など管理栄養士と職員の相談のもと、適切に支援している。水分量が確保できるよう、お茶以外の飲物も工夫している。必要な場合は水分チェック表を作成し水分摂取量を把握している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、うがいの声掛けと見守り確認を行っている。義歯の方は洗浄を介助している。必要な方は、歯科受診を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助表を作成し、排泄パターンを把握し、個人の状態に応じた声掛けを行い、安心して清潔を保ち、気持ちの良い排泄ができるよう工夫している。プライバシーを考慮した対応にも心掛けている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士が検討し便秘予防として個別にヨーグルト、ヤクルト、食物繊維を摂取してもらっている。体操や歩行などの運動も取り入れている。十分な水分摂取を行っている。担当医と相談の上、必要な方には整腸剤や下剤を処方していただく。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は毎日可能である。日曜日は家族の面会が多く、また通院がないため菓子作りなど皆さんと一緒に楽しむ時間を設けているが希望があれば入浴できる。本人の体調や希望を聴き、入浴へ誘っている。気が向かないときは、時間をおいて再度誘う。足浴、シャワー浴でリラックスしてもらう時もある。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の睡眠パターンを把握し、1日のリズムを通して安眠できるように対処している。日中は、なるべく活動的に過ごしてもらえよう支援しているが、お昼寝を希望される方や必要な方は適切な時間の休息をしていただいている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員が管理し、薬袋に服薬の時間、名前を書き込んでいる。薬の種類、副作用については個人ファイルで管理し、職員がいつでもわかるようにしている。薬の変更時は、症状・観察を記録し、主治医に情報提供している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴より個人の趣味が生かせるよう空閑作りをしている。編み物、書道、折り紙、歌など皆でできる事と個人の趣味を分けて実施している。洗濯物干しやたたみなども職員と一緒にやっている。今はコロナ禍でできていないが、職員と一緒に外食やショッピング等に出掛けたりしていた。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は外気浴で散歩している。花見やドライブにも出かけている。コロナ禍で控えているが、以前は家族に働きかけ外出の機会を作っていた。日帰り旅行や外食ドライブ、地域イベント参加など企画していた。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できる方には、買物時に個人の財布にて使ってもらっている。個々の利用者に応じた金銭の額や使途に関する相談を家族等と行い、合意を得て管理を行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話やコードレス電話があり、そのたび対応している。自分でかけられない方には、家族へ働きかけ機会を作っている。携帯電話を持っている方もいる。家族や友人への年賀状を勧めている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や季節の花を飾り、毎日清掃して心地よくしている。床の間や掘りごたつのある畳コーナーやソファを置き、家庭的な空間になるよう努めている。空調を管理し、冬場は加湿器も使用している。天候の良い日は外のテーブルでティータイムをしている。玄関前やベランダに花を植え、季節感を味わってもらっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室や廊下にソファを置いて、入居者同士と一緒に楽しく過ごせるように配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使っていた馴染みの物品を持ってきて頂き、家族と一緒に落ち着ける部屋作りをしている。 家族の写真や誕生日の記念写真などを飾っている。自分で作った作品も飾っている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差はなく、手すりの設置も十分あり、床には安全な床材マットを使用している。トイレ、浴室、洗面台には杖立を設置している。又、トイレスペースを広く取り、安全性を確保している。入居者の状態に応じて、手すりや家具の配置を変えて安全な環境作りに努めている。自分の居室が分からなくなる人には個別の目印を設置している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		